梅毒 TP 法	2220000
	担当部署
TPLA	生化

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→感染症・ウイルス→
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		特記事項なし
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	特記事項なし
検体採取の特別なタイミング	特記事項なし

	検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体
保管検体の保存期間	冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	当日中～翌日
生物学的基準範囲	陰性 10 U/mL 未満 判定保留 10 U/mL 以上～20 U/mL 未満 陽性 20 U/mL 以上
臨床判断値	設定なし

基準値				単位	U/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし

パニック値	高値	設定なし
	低値	設定なし
生理的変動要因		特記事項なし
臨床的意義		梅毒は梅毒トレポネーマ(Treponema pallidum)の感染による全身性，慢性の性感染症である．梅毒の診断は，病原体である T.pallidum の検出と血清反応によるが梅毒は無症状の時期が長く，一般的に梅毒血清反応が利用される． 梅毒の血清学的検査としては． T.pallidum 抗原を用いる梅毒トレポネーマ抗体検査法と梅毒脂質(カルジオリピン)抗原を用いるカルジオリピン抗体検査法(非特異的トレポネーマ抗体検査法)がある． 梅赤トレポネーマ抗体検査法は T.pallidum 菌体成分を抗原に主にに凝集反応による測定試薬が使用されている． 凝集反応には動物の赤血球を用いた hemagglutination(HA)法やゼラチン粒子を用いた PA(particleagglutination)法,ラテックスを用いた LA(latexagglutination)法などがあり． それぞれ TPHA,TPPA,TPLA と呼ばれている． または．総称して TPHA 法と呼ばれている.TPHA 法では主にに IgG 抗体を検出するためカルジオリピン抗体法に比べて初期感染では陽性化するのが遅いといわれている． T.pallidum 抗原反応は梅毒に対する特異性が極めて高いので．梅毒の診断診断には有用であるが．治療の適応あるいは治療効果の判定などには不適当である． 有効治療が加えられても容易に抗体価の低下がみられず． また半永久的に陽性を持続する． 日本臨床第 7 版 1，142-145,2009